

「コウノトリがやって来た」

福井県越前市長 奈良 俊幸

平成 21 年 10 月の 2 期目の市長選挙に当たって私は、現在の日本を覆っている閉塞感は近年、日本人が目先の利益に踊らされ、短期的な成果を追い求め過ぎた結果、人と人との絆や自然との共生を余りにも軽視してきたことに起因しており、越前市では長期的な視点に立って「人づくり、ものづくり、まちづくり」に取り組んでいきたいとの決意を表明しました。

そのシンボルとして、「コウノトリが再び飛来することを夢見て、環境調和型農業や里地里山の保全再生に力を注ぐ」ことを市長選挙のマニフェストに明記しました。

越前市はコウノトリにゆかりの深い市で、昭和 30 年代につがいのコウノトリが市内に 9 年間滞在するとともに、昭和 45 年にはくちばしの折れたコウノトリが飛来したものの、上手に餌を啄むことができなかつたために衰弱し、翌 46 年に保護されて兵庫県豊岡市に移送され、その後 34 年間豊岡市で「武生」（合併前の本市の名称）と名付けられ大切に飼育された経緯があります。

平成 19 年以降にコウノトリ「武生」の孫が 3 羽放鳥されたことから、その飛来を夢見て地域住民と里地里山の保全再生活動に取り組むとともに、JA と協力して福井県認証の特別栽培米（減農薬・減化学肥料の米）の普及に努めた結果、昨年は福井県全体の作付面積（1000ha）の 43%（430ha）を本市が占めるまでになり、「コウノトリ呼び戻す農法米」と命名した無農薬・無化学肥料の米作りも始まりました。

こうした努力が実を結び、一昨年 4 月に 40 年振りにコウノトリが本市に飛来し、田んぼで餌を啄みながら 107 日間滞在を続けたことから「えっちゃん」と名付け、特別住民票も発行しました。

さらには、兵庫・福井両県が鳥インフルエンザ等の感染症リスクを軽減するため、コウノトリの分散飼育に挑むことになり、コウノトリのケージや巣塔が越前市内に設置され、昨年末の 12 月 10 日に兵庫県からコウノトリのつがいが運ばれ、本市での飼育・繁殖の取組みが始まりました。

移送されたコウノトリは、これまでに 41 個の卵を産み、孵化した 11 羽のヒナが育ち、そのうち 4 羽が放鳥されています。

順調に進めば、本市で産卵・孵化し、生まれ育ったコウノトリがやがて放鳥され、市内に定着することが期待されており、昨年 3 月に策定した「越前市コウノトリが舞う里づくり構想」の推進を図りながら、コウノトリが定着できる自然環境の保全再生と環境調和型農業の推進に引き続き取り組んでまいります。